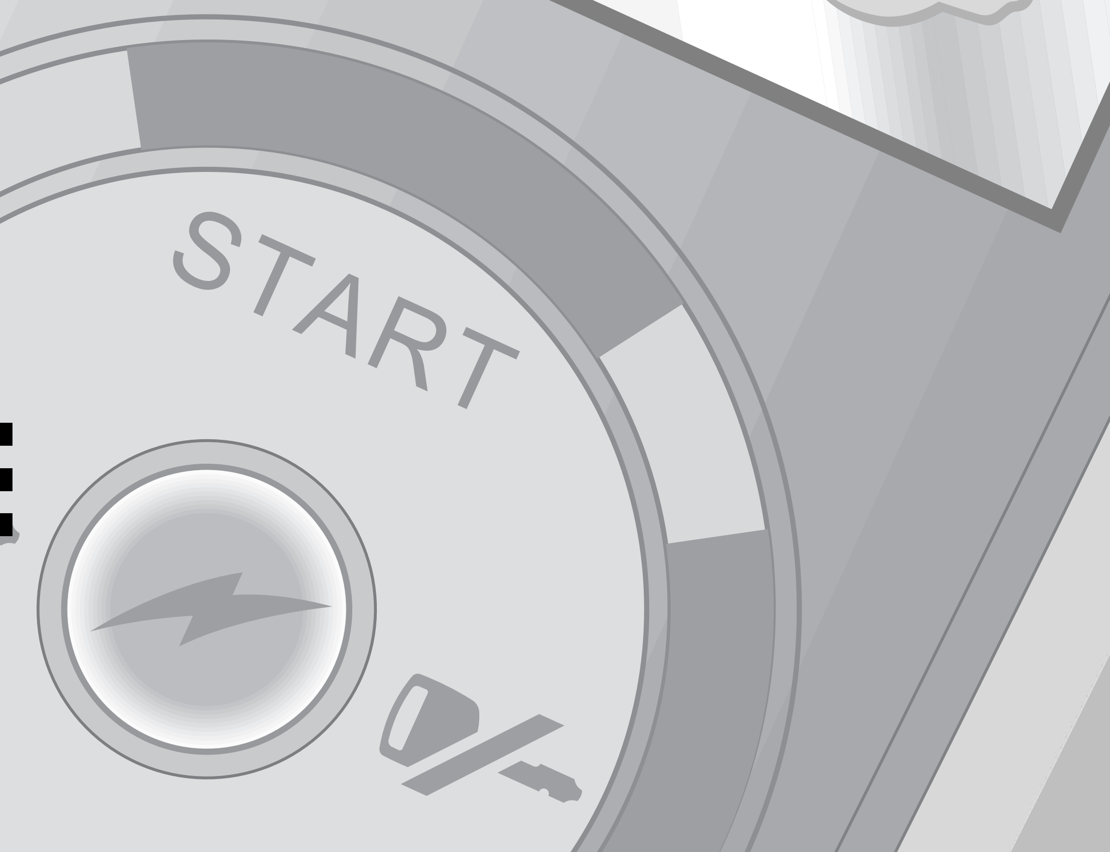
CARMATE
No.0673-9531C

リモコンエンジンスターター

TE-W2000

〈取扱説明書・保証書〉



目　次

ページ

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

TE-W2000の特長 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

警告・注意事項（必ずお読みください） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

内容物・各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

リモコン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

メインユニット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

アンテナユニット・その他付属品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

使いかたの基本 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

リモコンでエンジンをかける ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

リモコンでエンジンを止める ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

ドアをロックする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

ドアをアンロックする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

車両状態のチェックをする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

リモコンのボタン操作を無効にする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

ターボタイマーを使用する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

ページ

各種設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

エンジンスターターのセルモーター回転時間を設定する ・・・・・・・・ 22
エンジンスターターの自動停止時間を設定する ・・・・・・・・ 23
ターボタイマー機能の設定 ・・・・・・・・ 24
サイドブレーキ検出の設定 ・・・・・・・・・・・ 25
P/N検出・フットブレーキ検出の設定 ・・・・・・・・・・・ 26
ホンダABS装着車に取付ける場合の設定 ・・・・・・・・・・・ 27
L端子配線を行なう場合の設定 ・・・・・・・・・・・ 28
スターターカット(乗り逃げ防止)機能のON/OFF設定 ・・・・・・・・・・・ 29
OP端子出力の設定 ・・・・・・・・・・・ 30
グロータイムの設定 ・・・・・・・・・・・ 31
P/N検出時のST1/ST2切替 ・・・・・・・・・・・ 32
P/N検出データの設定 ・・・・・・・・・・・ 33

取付け後のメンテナンスなど ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

スペアリモコンを使用する(リモコンIDの書込み方法) ・・・・・・・・・・・ 36
リモコンの電池交換について ・・・・・・・・・・・ 37
エンジンスターター機能が作動しない場合 ・・・・・・・・・・・ 38
故障かな?と思ったら ・・・・・・・・・・・ 41

仕　様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

保証書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

はじめに

このたびは、リモコンエンジンスターターTE-W2000をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、リモコンエンジンスターターTE-W2000（以下本品という）をご使用頂くためのガイドブックです。
この製品は、一定の安全条件を満たしている場合に、遠隔操作により車のエンジンをスタートさせる（ドアロック/アンロックさせる）とともにターボ車のタービントラブルを未然に防ぐため、アフターアイドリングを行う装置です。
この製品を正しく安全にご使用頂くために、この取扱説明書をよくお読みになり、内容を理解された上で実際にご使用ください。この取扱説明書はお読みになった後も、車検証入れなどすぐに取出せる場所に保管し、ご使用中にわからないことや具合の悪いことがおきたとき、お役立てください。
また、本品を譲られる場合は、次に使用される方に本書も併せてお渡しください。尚、誤った取付、使用による事故、破損などの責任は一切負いかねます。

※本品使用中に、万一取付車に盗難等の被害が発生しても、当社補償は一切ありません。

注意事項の定義

この取扱説明書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。
各々の定義（意味）を充分に理解された上で、お取扱いください。

⚠危険	重大事故が起こる状況のもの
⚠警告	人体に対し、危険が生じる恐れのあるもの
⚠注意	物品を破損、故障させる恐れのあるもの
⚠禁止	法律に違反する恐れのあるもの
参考	取付け、取扱において知っていると有益な情報

TE-W2000の特長

■多彩なアンサーバック機能（→P18）

エンジン情報・ドアロック状態（※）・アイドリング残時間・車内温度・車両バッテリー電圧をリモコンの液晶画面にデジタル表示します。
（※）ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロック及びドアアンロックの操作のみが反映されるものです。尚、ドアロックの操作には別途ドアロックオプションが必要です。

■抜群の操作性

リモコンは1操作を1つのボタンで行なうため、面倒な2度押しなどの必要がありません。さらに、アンテナを伸ばさなくても操作OK。ストレスを感じない快適な操作性を実現しました。

■ドアロック機能（→P16・P17）

本品のリモコンで遠距離からでもドアロック（アンロック）が可能なため非常に便利です。また、別売の「ハザードフラッシュリレー2」（TE418）を組み合わせる事によりハザード連動も可能です。
（※）ドアロック機能は別途アダプター等が必要です。また、車種によってはご使用いただくことができない場合があります。詳しくは店頭の車種別ハーネス適合表をご覧ください。

■車速ドアロック機能（オプション）

別売の車速連動ドアロックコード（TE419）を接続することで、車速連動ドアロック機能が使用できます。
（※）車種によってはご使用いただくことができない場合があります。

■スターターカット機能（→P29）

本品のリモコンでドアロック操作を行なう事により、キーによるエンジン始動ができなくなるため、車両盗難（乗逃げ）の防止に絶大な効果があります。
（※）スターターカット機能はドアロック配線を行なっていない場合でも使用できます。また本機能を使用するには、スターターカット機能の設定（→P29）を行なう必要があります。

■誤操作防止機能（→P19）

カバンやポケットの中での思わぬ誤操作を防ぐため、リモコンにキー操作ロック機能を装備しました。

■フルオートターボタイマー機能（→P20）

ターボ車のアフターアイドリングを行なうためのターボタイマー機能を搭載しました。アフターアイドリングの時間は、走行時間に応じて自動的に変化します。

■自動停止機能（→P23）

本品によるエンジン始動後一定の時間が経過すると自動的にエンジンが停止します。

■リトライ機能

一度の始動動作でエンジンが掛からない場合でも、自動的にセルモーターの回転時間を延長しながら合計3回まで再始動を試みますので厳冬期でも安心です（最長セルモーター回転時間=約4.0秒）。

■アイドリング延長機能（→P14）

本品でのエンジン始動中に再度STARTボタンを押すことにより、アイドリング残時間が始動時と同じ時間に戻ります。

■防犯LED機能

アンテナユニット内蔵の赤色LEDが点滅することで、車上狙いなどの犯罪者を心理的に威嚇し、防犯効果を発揮します。

■スリープモード

バッテリーの負担を軽減させるために、約2週間エンジンの始動を行なわなかった場合に防犯LEDおよびエンジンスターターの機能を自動的に停止します。

■スペアリモコン対応＜別売＞（→P36）

標準装備のリモコンを紛失した場合、別売のスペアリモコンが使用可能です。

■純正イモビライザー装着車対応

純正イモビライザー装着車でもエンジンスターターがお使いいただけるよう、別売のアダプターを用意しました。
（※）車種により適合の可・不可があります。詳しくは店頭の車種別ハーネス適合表をご覧ください。

■電波法適合品

本品の特定小電力無線は日本国内の電波法に適合していますので安心してお使い頂くことができます。

■車検対応品

本品は車検対応品です。

■寒冷地推奨品

本品のメインユニットは−20℃でも動作可能なため、厳冬期でも安定した動作を実現します。

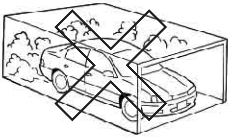
■安心の日本製で、信頼の3年保証

TE-W2000は日本製。徹底した品質管理により、信頼の3年保証（リモコンは1年）を実現しました。

警告・注意事項（必ずお読みください）

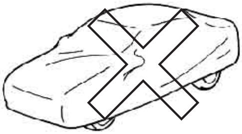
警告事項

⚠警告



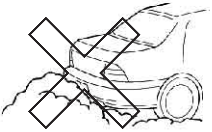
換気の良くない場所（ガレージ・立体駐車場・地下駐車場）で
使用しないでください。
排気ガスが充満して大変危険です。

⚠警告



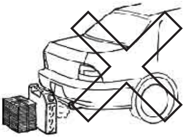
車にボディカバーを掛けたままで使用しないでください。
火災の恐れがあります。

⚠警告



マフラーが雪で埋もれた状態で使用しないでください。
排気ガスが車内に充満する恐れがあります。
また配線の損傷による車両火災の原因にもなりますので
大変危険です。

⚠警告

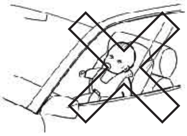


車の近くに燃えやすいものがないことを確認してから、
ご使用ください。
火災の恐れがあります。

⚠警告

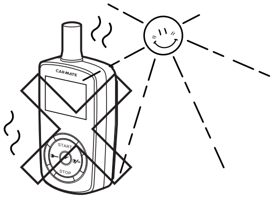
リモコンは、お子様の手が届かない場所に保管してください。
誤操作による事故の恐れがあります。

⚠警告



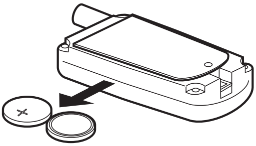
お子様やペット などを車内に残したままで、使用しないでください。
事故の恐れがあります。

⚠警告



リモコンは、直射日光の当たる場所・車内・暖房器具の近く等、
高温になる場所で、保管または使用しないでください。
リモコンが高温になりやけどや故障の原因となります。
特に、車のダッシュボード上は非常に高温となりますので、絶対に
放置しないでください。

⚠警告



車を他人に預ける時（整備に出す等）は、リモコンの電池を
抜いておいてください。
誤操作による事故の恐れがあります。

⚠警告

運転中に本品の操作をしないでください。
事故の原因になります。

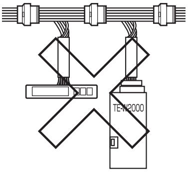
⚠警告

ターボタイマー機能を使用する際は、必ずセレクトレバーが「P」
の位置でキーを抜いてください。また、カウントダウン中にキ
ーを抜いたままセレクトレバーを動かすことができる車両は、
ターボタイマー機能を使用しないでください。
事故の原因になります。

警告・注意事項（必ずお読みください）

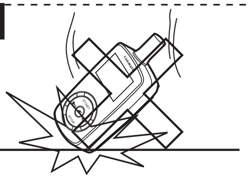
注意事項

⚠注意



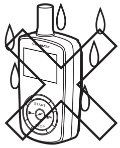
ターボタイマー（スターター）や盗難警報機類との
併用取付けはしないでください。
誤作動の原因となります。

⚠注意



リモコンを床に落としたり硬いものにぶつけたりしないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合が
あります。

⚠注意

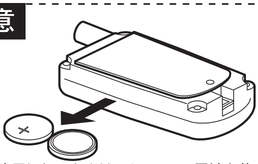


リモコンは直接水のかかる場所や湿気の多い場所で、保管
または使用しないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合が
あります。

⚠注意

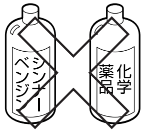
リモコンのアンテナに強い力がかかるような持ち方をしないで
ください。破損の原因となります。

⚠注意



長時間使用しないときは、リモコンの電池を抜いておいて
ください。
故障の原因となります。

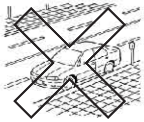
⚠注意



製品が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよく
絞ってから拭き、乾いた布でもう一度拭いてください。
ベンジン、シンナー等の化学薬品は、絶対に使用しないで
ください。　変形・変色や故障の原因となります。

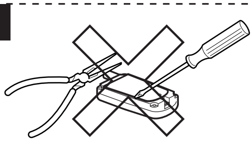
禁止事項

⚠禁止



エンジンスターター機能およびターボタイマー機能は 安全な
場所でご使用ください。道路で使用すると違法となりますので、
絶対に使用しないでください。

⚠禁止



この製品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けて
おります。分解したり、改造することは、法律で禁じられておりま
すので、絶対にしないでください。

⚠禁止

製品に貼付の技術適合証明ラベルをはがしたり、ラベルのない
ものを使用することは、法律で禁じられておりますので、絶対に
しないでください

⚠禁止

この製品は、日本国内の電波法に適合しています。国外での使用は、
違法となる場合がありますので、おやめください。

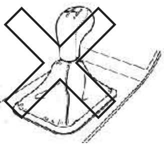
⚠CAUTION　This product is for use only in Japan.

⚠禁止

一部地域では、暖機運転以外の目的で使用すると条例違反となります。

警告・注意事項（必ずお読みください）

禁止事項

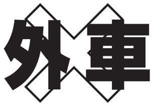


●マニュアル車には、取付できません。

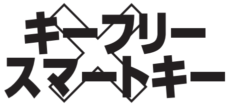
⚠危険

マニュアル車へ取付けることは、絶対にしないでください。マニュアル車は、冬季にパーキングブレーキの凍結を防ぐため、パーキングブレーキを掛けずにギアを「ロー」もしくは「バック」に入れ駐車する場合があります。また、坂道などに駐車する際にもギアを「ロー」もしくは「バック」に入れます。
その状態でエンジンスターターを使用すると、無人走行の原因となり、思わぬ大事故につながります。

●12V車専用です。トラックなどの24V車には、お取付けできません。



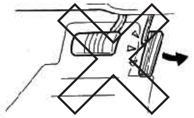
●外車には、取付できません。



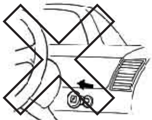
●キーフリーシステム・スマートキーシステム装着車には、取付できません（適合車種除く）。

●89年以前の車でシフトロックが装着されていない車（フットブレーキを踏まずにセレクトレバーが「P」から移動できる車）には、取付けできません。

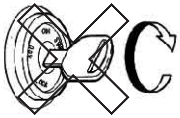
●エンジン始動時に下記のような場合には、お取付けできません。



［アクセル操作が必要な車］



［チョークレバーを引く車］



［年間通じて、キーを回して2秒程度でエンジンのかからない車］

●ホンダ車の雨滴感応ワイパー装備車には、お取付けできません。
取付けすると車両故障の原因となります。

参考事項

参考 電波到達距離は、周囲の環境や使用状況により異なります。車と送信場所との間に建造物等がある場合には、電波到達距離が短くなります。

参考 ほとんどの純正キーレスエントリー装着車は、車両の仕様上、エンジン始動中に純正キーレスエントリーが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能でのエンジン始動中は本品のドアロック/アンロック機能を使用するか、キーでドアを開ける必要がありますのでご了承ください。

参考 まれに、本品と純正のキーレスエントリーの電波が干渉し、キーレスエントリーの作動距離が極端に短くなる場合があります。その場合は、通信周波数の切替（→P36）をお試しください。

参考 本品のリモコンは、低温になる場所に置いておくと一時的に電池電圧が低下して液晶やバックライトの表示が薄くなる場合がありますが、常温になれば元に戻ります。

参考 本品のそばで大出力の無線機等を使用すると、無線機の発する電磁波により、誤作動や未作動の原因となる場合があります。

参考 リモコンをTV、パソコンなどの近くで使用するとノイズの影響により通信距離が短くなる場合があります。その場合はノイズ発生源から離してお使いください。

参考 オートライトコントロール装着車は、ライトスイッチがAUTOの位置で本品を作動させると、オートライト機能が正常に作動しない場合があります。ライトスイッチは必ずOFFの位置にしてご使用ください。

参考 オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車は、本品でエンジン始動した状態でイグニッションキーを差込んでもオートチルトおよびマイコンプリセットが作動しなくなりますので、キーでエンジンを再始動してください。

内容物・各部の名称

ページ

リモコン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

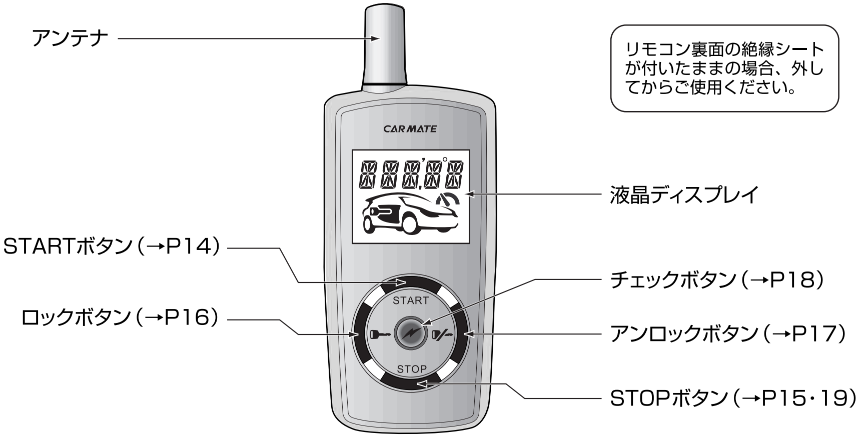
メインユニット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

アンテナユニット・その他付属品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

内容物・各部の名称 ①

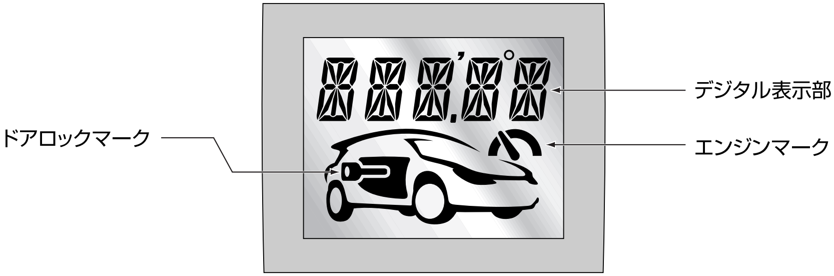
リモコン　（1ヶ）

参考　本品はリモコンを垂直に立てた状態で操作することで最も通信距離が長くなるように設計されています。また、アンテナ部に触れた状態で操作すると著しく通信距離を縮めますのでご注意ください。



リモコン裏面の絶縁シートが付いたままの場合、外してからご使用ください。

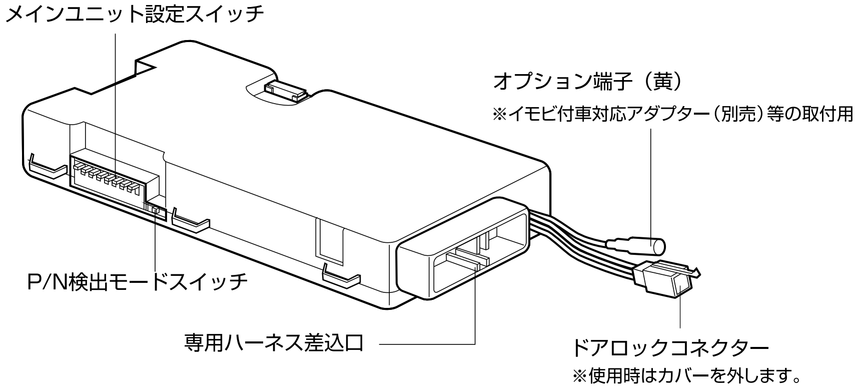
リモコン（液晶ディスプレイ）



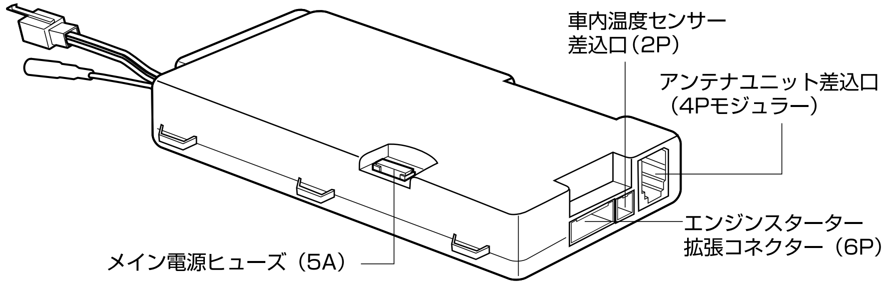
内容物・各部の名称 ②

メインユニット　（1ヶ）

▼専用ハーネス側

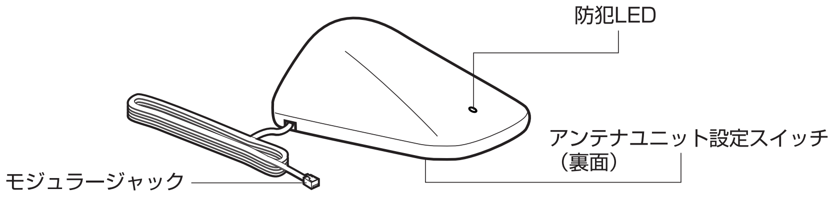


▼アンテナユニット側



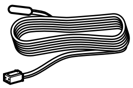
内容物・各部の名称 ③

アンテナユニット　（1ヶ）



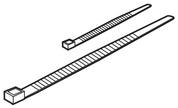
その他付属品

●車内温度センサー … 1ヶ



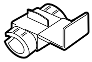
●結束バンド …小 3本
　　　　　　　大 1本

配線の結束やメインユニットの固定などに使用します。



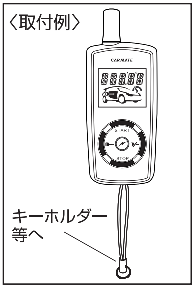
●ワンタッチコネクター … 1ヶ

フットブレーキの配線に使用します。



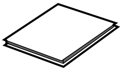
●ストラップ … 1ヶ

リモコンをキーホルダーなどに付ける際に使用します。



●面ファスナー … 1セット

アンテナユニットの取付けに使用します。

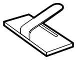


●危険シール … 1枚

エンジンルーム内の目立つ場所に貼付けます。

●車内温度センサー固定金具… 4ヶ

車内温度センサーを車内に固定する際に使用します。



使いかたの基本

この項では、本品の基本的な使いかたについて解説しています。

ページ

リモコンでエンジンをかける ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

リモコンでエンジンを止める ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

ドアをロックする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

ドアをアンロックする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

車両状態のチェックをする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

リモコンのボタン操作を無効にする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

ターボタイマーを使用する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

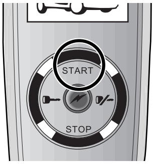
リモコンでエンジンをかける

この機能を使用する前に

必ずP6〜P8の警告事項および注意事項をお読みになった上でご使用ください。

参考
・純正キーレスエントリー装着車の場合、車両側の構造上、エンジンスターター始動中は純正キーレスエントリーの操作を受け付けない場合があります。（本品のドアロック機能は働きます。）
・リモコンでエンジンを掛けたのち実際に走行するには、キーを差し込んでイグニッションをONにする必要があります。（一部の車種を除き、一旦エンジンを止めてキーで掛け直す必要はありません。）

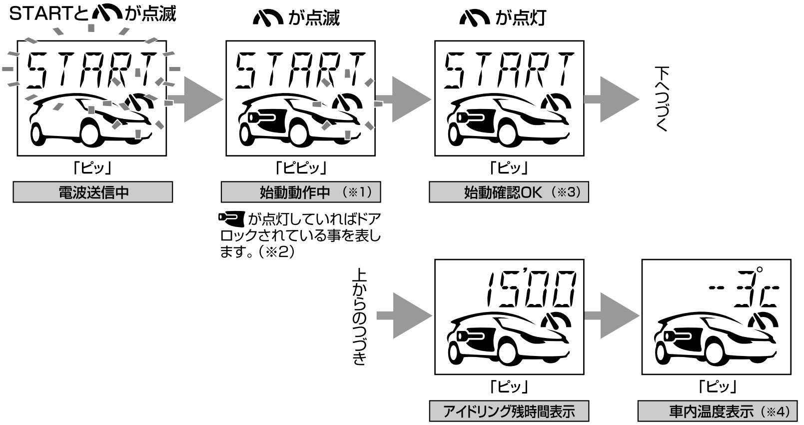
操作方法



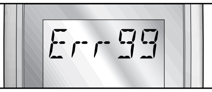
1 リモコンの「START」ボタンを「カチッ」と押します。

参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、 短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受付けません。

2 以下のような表示が行なわれます（表示の切り替り毎にバックライトが点灯します）。



右図のようなエラー表示（Err 99 など）が出る場合は
P39・P40のエラー表示一覧をご確認ください。



（※1）エンジンが掛かったかどうかメインユニットが判断するまでこの表示が続きます。また、すでに本品によるエンジン始動が行なわれている場合は、この表示は行ないません。
（※2）ドアロックの制御には別途配線が必要です。また、ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロックの状態が反映されるものですので、純正キー（純正キーレス）などでドアのロック/アンロックを行なっても表示には反映されません。
（※3）30秒以内にリモコンがエンジン始動確認OKの信号を受信できなかった場合は、これ以降の表示を行ないません。
（※4）車内温度表示は、取付場所によって実際の車室内の温度とは異なる場合があります。

参考 エンジンスターターによるエンジン始動中はアンテナユニットのブザーが約1秒おきに「ピッピッ……」と鳴りつづけます。

これで車両のエンジンが正常にスタートしました。

正常に操作できているにもかかわらず、エンジンが始動しない場合は、38〜40ページの「エンジンスターター機能が作動しない場合」をご覧ください。

アイドリング延長機能

すでに本品によりエンジンが始動している状態から本ページの操作を行なうと、 再びアイドリング残時間がスタート操作時に戻ります。
※排気ガスによる大気汚染を防ぐため、不必要なアイドリングの延長は行なわないでください。

リモコンでエンジンを止める

参考
・本操作でエンジンを停止できるのは、本品によってエンジンを掛けた場合と、ターボタイマー機能によりアフターアイドリングを行なっている場合だけです。
・キーシリンダーにキーを差して「イグニッションON」（通常走行の位置）に回している場合は本操作でエンジンを止めることはできません。

操作方法

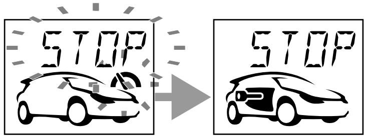
❶ リモコンの「STOP」ボタンを「カチッ」と押して離します。

参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、 短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受け付けません。

参考 3秒以上「STOP」ボタンを押し続けると、キー操作ロック機能が働きますのでご注意ください（→P19）。

❷ 以下のような表示が行なわれます。

STOPと が点滅



「ピッ」
電波送信中

「ピピッ」
エンジン停止

が点灯していればドアロックされていることを表します。（※1）

右図のようなエラー表示（Err 99など）が出る場合はP39・P40のエラー表示一覧をご確認ください。

（※1）ドアロックの制御には別途配線が必要です。また、ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロックの状態が反映されるものですので、純正キー（純正キーレス）などでドアのロック/アンロックを行なっても表示には反映されません。

これで車両のエンジンが正常に停止しました。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。
●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

ドアをロックする

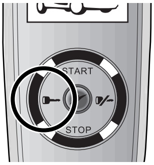
参考

・ドアロック機能は、ドアロック適合車種にドアロックコード（別売）の配線を行なっている場合のみ作動します。
・スターターカット機能が「ON」の場合（→P29）、本品によるドアロック中はスターターカット機能が働くため、キーでエンジンを掛けることができません。（ドアロックの配線を行なっていない場合でもスターターカット機能は作動します。）
・キーによるエンジン始動時は、リモコンによるドアロック操作ができません。

操作方法

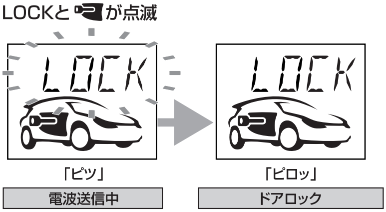
まず、車両の全てのドアが閉じられていることを確認します。

❶ リモコンの（ロック）ボタンを「カチッ」と押します。



参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、 短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受け付けません。

❷ 以下のような表示が行なわれます。



❸ 同時にドアがロックされます。

ドアロックは、ドアロック機能に対応した車種に対してドアロック配線（別売）を行なっている場合のみ作動します。

右図のようなエラー表示（Err 99など）が出る場合は
P39・P40のエラー表示一覧をご確認ください。

これでドアロックされました。

注意 本品によるドアロックを行なった場合は、正常に施錠されているかどうか確認してください。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。
●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
●これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

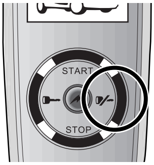
ドアをアンロックする

参考 ・ドアロック機能は、ドアロック適合車種にドアロックコード（別売）の配線を行なっている場合のみ作動します。
・純正キーレスエントリーにドアの自動再ロック機能がついている車種の場合、本品のリモコンでドアアンロック操作を行なっても自動再ロック機能が働かないことがありますので、ご注意ください。

操作方法

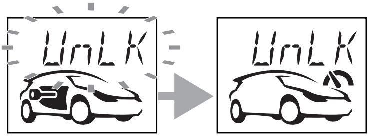
1 リモコンの（アンロック）ボタンを「カチッ」と押します。

参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、 短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受け付けません。



2 以下のような表示が行なわれます。

UnLKと が点滅



「ピッ」 電波送信中

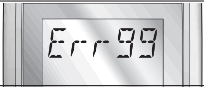
「ピロッ」 ドアアンロック

が点灯していれば本品によるアイドリングが行なわれている事を表します。

3 同時にドアがアンロックされます。

ドアのアンロックは、ドアロック機能に対応した車種に対してドアロック配線（別売）を行なっている場合のみ作動します。

右図のようなエラー表示（Err 99など）が出る場合はP39・P40のエラー表示一覧をご確認ください。



これでドアがアンロックされました。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

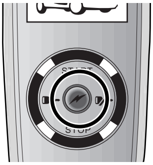
- ●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
- ●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
- ●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
- ●これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

車両状態のチェックをする

解説

本品のリモコンを使用して様々な車両状態がチェックできます。

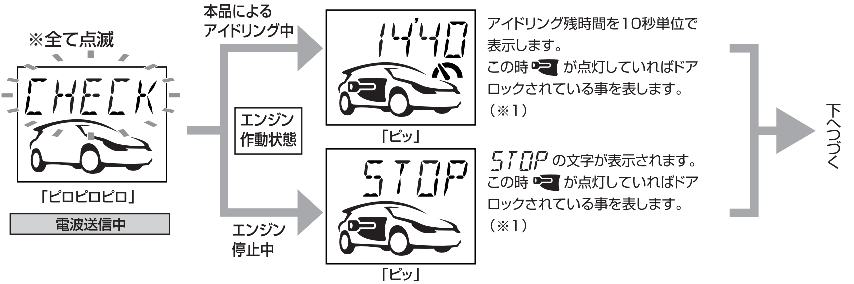
操作方法

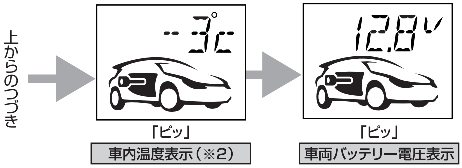


1 リモコンの（チェック）ボタンを「カチッ」と押して離します。

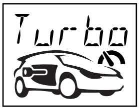
参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受け付けません。
3秒以上 ボタンを押し続けると、設定モードになりますのでご注意ください。
その場合は、そのまま何もせずに10秒以上待つ事で元の状態に戻ります。

2 以下のような表示が行なわれます。 ※キーによる走行中は、エンジン作動状態の表示を行ないません。

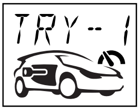




エンジン作動状態には上記以外にも次のような表示があります。



ターボタイマーが作動中です。



エンジン始動を試みています。
※ TRY の後の数字（1～3）はエンジン始動試行回数です。

右図のようなエラー表示（Err99 など）が出る場合はP39・P40のエラー表示一覧をご確認ください。

（※1）ドアロックの制御には別途配線が必要です。また、ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロックの状態が反映されるものですので、純正キー（純正キーレス）などでドアのロック/アンロックを行なっても表示には反映されません。
（※2）車内温度表示は、取付場所によって実際の車室内の温度とは異なる場合があります。

リモコンのボタン操作を無効にする（キー操作ロック機能）

解　説

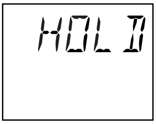
本品はリモコンのボタン操作をロックして、不意の誤操作を防止することができます。
万一に備え、操作時以外はボタン操作をロックしておく事をおすすめします。

設定方法

❶ リモコンの「STOP」ボタンを3秒以上押し続けます。

参考 3秒未満でボタンから指を離すとエンジンストップの操作（→P15）となりますのでご注意ください。

❷ 液晶ディスプレイ部に HOLD の文字が表示されます。

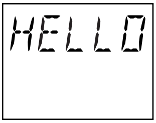


これでボタン操作が無効になりました。

解除方法

❶ 設定時と同様に、リモコンの「STOP」ボタンを3秒以上押し続けます。

❷ 液晶ディスプレイ部に HELLO の文字が表示されます。



「ピロッ」

これでボタン操作が可能になりました。

ターボタイマーを使用する

本品には、アフターアイドリングが必要なターボ車のために「ターボタイマー機能」が装備されています。ターボタイマー機能を使用すると、キーをOFFにした後、走行時間（エンジンキーをONにしてからOFFになるまでの時間）に応じたアフターアイドリングが自動的に行なえます。

警告 ・ターボタイマー機能を使用する際は、必ずセレクトレバーが「P」の位置でキーを抜いてください。また、カウントダウン中にキーを抜いたままセレクトレバーを動かすことができる一部の車両は、ターボタイマー機能を使用しないでください。事故の原因になります。

参考 ・キーによるエンジン始動時間が約10秒未満の場合は、ターボタイマーは作動しません。

操作方法

・ターボタイマーを使用するには本体の設定が必要です（→P24）。設定が行われていない場合は本機能は作動しませんのでご注意ください。

1 **エンジンが始動している状態（通常の走行状態）から、イグニッションキーをOFFにします。**

2 **自動的にターボタイマーのアフターアイドリングが始まります。**

アフターアイドリング時間の目安

走行時間	アフターアイドリング時間	アンテナユニットの音
～　30分	1分	ピッ　ピッ　ピッ……
30分　～　60分	2分	ピピッ　ピピッ　ピピッ……
60分　～	3分	ピピピッ　ピピピッ……

※アンテナユニットの音はアフターアイドリングの残り時間によって変化します。
これにより、おおよそのアフターアイドリング残時間を知ることができます。

3 **アフターアイドリングが終了すると、自動的にエンジンが停止します。**

アフターアイドリングを途中で止める場合

リモコンの「STOP」ボタンを押すとアフターアイドリングが停止します。

※リモコンが手元にない場合は以下のいずれかの方法を行ってください。

(a) **P/N検出を行なっている場合**（→P26）
ターボタイマー作動開始から約3秒以上経過したあと、イグニッションキーを「ON」にしてセレクトレバーを一旦「P」から「R」に動かすとカウントダウンが停止します。カウントダウンが停止したらセレクトレバーを「P」に戻し、5秒以内にキーでエンジンを切り、キーを抜いてください。

(b) **フットブレーキ検出を行なっている場合**（→P26）
ターボタイマー作動開始から約3秒以上経過したあと、車両のフットブレーキを踏むとエンジンは止まります。

参考

ターボタイマー機能は、NA車などターボタイマーが必要ない車両にも設定することができますが、その場合無駄なアイドリングを行う事となり、排気ガスが環境に悪影響を及ぼす原因となるばかりか、騒音の発生やアイドリング時の燃料消費による燃費の悪化を招くため、特にアフターアイドリングの必要がない車種の場合は設定しないようにお願いします。

- 純正キーレスエントリー装着車の場合、車両側の構造上、ターボタイマー作動中は純正キーレスエントリーの操作を受け付けない場合があります（本品のドアロック機能は働きます）。
- ガソリンスタンド利用時など、ターボタイマーを途中で止めたい場合は、リモコンからエンジンを停止させる操作をするか、安全機能（P/N検出もしくはフットブレーキ検出）を利用してエンジンを止める事ができます。

各 種 設 定

この項では、使用状況に合わせて設定できる便利な機能を解説しています。
この項で行なう設定はアンテナユニット及びメインユニットの設定スイッチを使用して行ないます。

ページ

エンジンスターターのセルモーター回転時間を設定する ・・・・・・・・・ 22
エンジンスターターの自動停止時間を設定する ・・・・・・・・・ 23
ターボタイマー機能の設定 ・・・・・・・・・ 24
サイドブレーキ検出の設定 ・・・・・・・・・・・ 25
P/N検出・フットブレーキ検出の設定 ・・・・・・・・・・・ 26
ホンダABS装着車に取付ける場合の設定 ・・・・・・・・・・・ 27
L端子配線を行なう場合の設定 ・・・・・・・・・・・ 28
スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定 ・・・・・・・・・・・ 29
OP端子出力の設定 ・・・・・・・・・・・ 30
グロータイムの設定 ・・・・・・・・・・・ 31
P/N検出時のST1/ST2切替 ・・・・・・・・・・・ 32
P/N検出データの設定 ・・・・・・・・・・・ 33

エンジンスターターのセルモーター回転時間を設定する

解説

本品は、エンジンスターター作動時のセルモーターの回転時間を5段階で切り替えることにより確実なエンジン始動を行うことができます。

参考

- 本品は、一度目の始動動作でエンジンが掛からなかった場合、リトライ機能が働き、最初の始動と合わせて合計3回のエンジン始動を試みます。またその際は、一回の始動毎にセルモーターの回転時間が0.5秒づつ長くなる仕様となっています　（最長時で約4.0秒となります）。
- 短めの設定で正常に始動する車両に対して長めの設定を行なうと、エンジンが掛かった後もセルモーターが回ることになり、その時セルモーターから「カリカリ・・」と異音が発生する原因となります。
- 純正イモビライザー装着車は、車両構造上セルモーターを長めに回す必要があります。純正イモビライザー装着車でエンジン始動が行なわれない場合は設定時間を長めに変更してください。

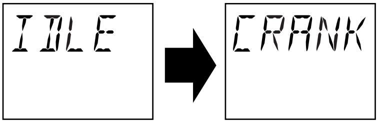
設定方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、 を押すことで元の状態に戻すことができます。
　また、15秒以上操作を行わない場合も同様です。

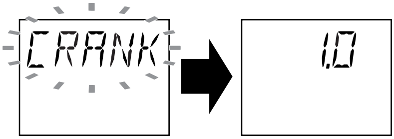
❶ ボタンを3秒以上押し続けます。

❷ リモコンに IDLE の表示が行なわれたら、STARTボタンを1回押してセルモーター回転時間の設定モードCRANKに切り替えます。

※STARTボタンを押し過ぎた時は、STOPボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。



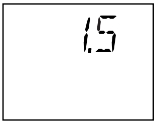
❸ ボタンを押すと、本体との通信を行ない、現在の設定状況が液晶ディスプレイに表示されます。



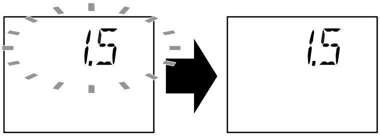
❹ STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、設定を変更します。

設定できる値

0.5/1.0（標準設定）/1.5/2.0/3.0秒



❺ 最後に ボタンを押して、本体へ設定内容を送信します。



参考

本設定は、アンテナユニットの設定スイッチNo.2でも変更できます。
※アンテナユニットの設定スイッチでは、1.0秒（スイッチOFF時）または、1.5秒（スイッチON時）の2段階のみ切替可能です。
※設定値は、設定スイッチまたはリモコン設定いずれの場合も最後に設定した内容が適用されます。

エンジンスターターの自動停止時間を設定する

解説

本品は、リモコンでエンジンを始動した後そのままにしておくと、設定した時間でエンジンが自動的に停止するようになっています。
例えば寒冷地などで、15分では暖機運転が完了しない場合など、設定時間を長くすることができます。

禁止

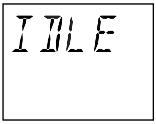
いずれの設定の場合も、必要以上の無駄なアイドリングは避けてください。
排気ガスなどにより環境汚染の原因となります。

設定方法

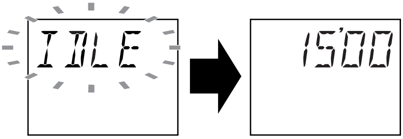
※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、を押すことで元の状態に戻すことができます。
　また、15秒以上操作を行わない場合も同様です。

1. ボタンを3秒以上押し続けます。

2. リモコンに IDLE の表示が行なわれます。



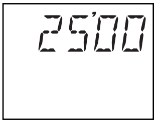
3. ボタンを押すと、本体との通信を行ない、現在の設定状況が液晶ディスプレイに表示されます。



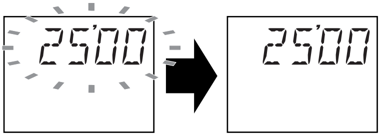
4. STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、設定を変更します。

設定できる値

10/15（標準設定）/20/25/30分



5. 最後に ボタンを押して、本体へ設定内容を送信します。



参考

本設定は、アンテナユニットの設定スイッチNo.3でも変更できます。
※アンテナユニットの設定スイッチでは、15分（スイッチOFF時）または、30分（スイッチON時）の2段階のみ切替可能です。
※設定値は、設定スイッチまたはリモコン設定いずれの場合も最後に設定した内容が適用されます。

ターボタイマー機能の設定

解説

本品は、走行時間に応じて自動的にターボタイマーの作動時間（アフターアイドリング時間）が変化します。
アフターアイドリング時間の目安

走行時間	アフターアイドリング時間	アンテナユニットの音
〜　30分	1分	ピッ　ピッ　ピッ……
30分　〜　60分	2分	ピピッ　ピピッ　ピピッ……
60分　〜	3分	ピピピッ　ピピピッ……

※アンテナユニットの音はアフターアイドリングの残り時間によって変化します。
これにより、おおよそのアフターアイドリング残時間を知ることができます。

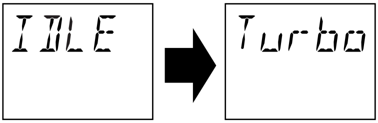
設定方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、キーボタンを押すことで元の状態に戻すことができます。
また、15秒以上操作を行わない場合も同様です。

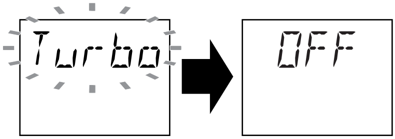
❶ ターボボタンを3秒以上押し続けます。

❷ リモコンに IDLE の表示が行なわれたら、STARTボタンを2回押してターボタイマーの設定モード Turbo に切り替えます。

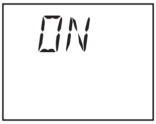
※STARTボタンを押し過ぎた時は、STOPボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。



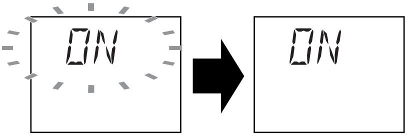
❸ ターボボタンを押すと、本体との通信を行ない、現在の設定状況が液晶ディスプレイに表示されます。



❹ STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、設定を変更します。



❺ 最後に ターボボタンを押して、本体へ設定内容を送信します。



参考

本設定は、アンテナユニットの設定スイッチNo.4でも変更できます。
※ターボタイマーを使用しない（スイッチOFF時）、使用する（スイッチON時）が選択可能です。
※設定値は、設定スイッチまたはリモコン設定いずれの場合も最後に設定した内容が適用されます。

関連項目

ターボタイマーを使用する（→P20）

サイドブレーキ検出の設定

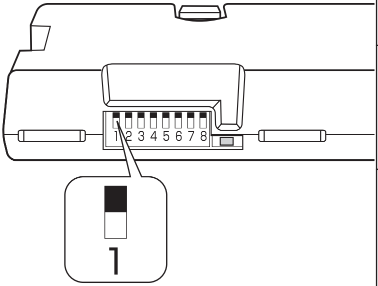
※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解 説

本品は、サイドブレーキ（または足踏み式のパーキングブレーキ）が掛かっていない時はリモコンからエンジンを始動できないようにすることができます。
これは本品の安全機能の1つですが、寒冷地などサイドブレーキを掛けずに駐車することがある場合は標準設定のままご使用ください。
また、サイドブレーキ検出を行う（「キャンセルしない」に設定する）場合は必ずサイドブレーキ検出コードを車両に配線する必要があります。
車両配線に関しては、別紙の取付マニュアルをご覧ください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.1「サイドブレーキ検出キャンセル」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	サイドブレーキ検出キャンセル
OFF（上側）	キャンセルしない
ON（下側）	キャンセルする（標準設定）

P/N検出・フットブレーキ検出の設定

※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
　特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解 説

本品の安全機能にはフットブレーキ検出機能とP/N検出機能がありますが、使用にあたっては、これらの安全機能のうちどちらかを選択していただく必要があります。
これらはエンジンスターター機能およびターボタイマー機能を安全に使っていただくための重要な設定ですので、取付け時に正しく設定が行なわれている必要があります。

参考

・フットブレーキ検出を行う場合は必ずフットブレーキ検出コードを車両に配線する必要があります。
　詳しくは、別紙の取付マニュアルを参照してください。

・P/N検出を行なう場合は併せてP/N検出時のST1/ST2切替（→P32）および P/N検出データの設定（→P33）を行なう必要があります。

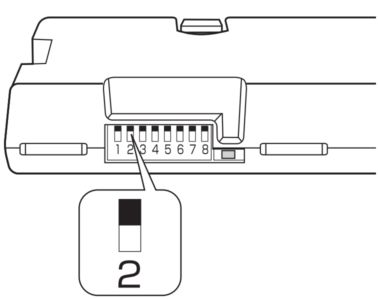
・ P/N検出は、車両によっては検出できない場合があります。その際はご面倒でもフットブレーキ検出を行なう必要があります。

注意

本品のP/N検出機能は、バッテリー交換等で本体の電源が断ち切られた場合にもデータを保持します。このためP/N検出データを設定した本体を他の車両に付け替える場合などは、一度本設定を「フットブレーキ検出」に切り替えてP/N検出データを消去した後、再度設定を行なってください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.2「フット/PN切替」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	フット/PN切替
OFF（上側）	フットブレーキ検出 ※フットブレーキ検出に切替えると P/N検出データは、消失します。
ON（下側）	P/N検出 （標準設定）

関連項目

P/N検出データの設定（→P33）
P/N検出時のST1/ST2切替（→P32）

ホンダABS装着車に取付ける場合の設定

※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解 説

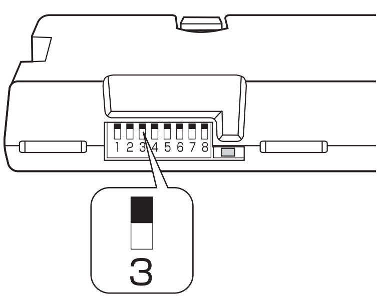
ABS（アンチロック・ブレーキ・システム）を純正装着しているホンダ車に本品を取付け、本品のリモコンでエンジンを始動した際にメーターパネル内の「ABS警告灯」が点灯したままになる場合のみこの設定を「ON」に切替えてください。

参考

- ホンダABS装着車に取付ける場合にこの設定を誤ると、エンジンスターターによる始動時にメーターパネル内のABS警告灯が点灯したままになる場合があります。
- ホンダABS装着車以外に取付ける場合にこの設定を誤ると、エンジンスターターによる始動が正常に行なわれない場合があります（セルは回るがエンジンが掛からないなど）。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.3「ホンダABS」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	ホンダABS
OFF（上側）	非装着車（標準設定）
ON（下側）	装 着 車

L端子配線を行なう場合の設定

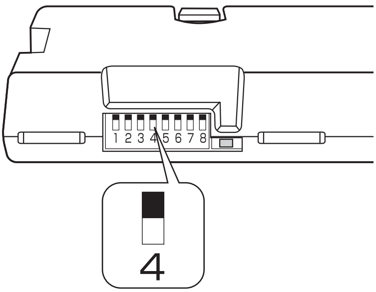
※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解 説

本品は車両特性によりエンジンの始動判断が行なえない場合、L端子（→P39表下 参考 ）に配線を行なうことで正常な始動判断を行なうことができるようになります。
この設定は、L端子への配線を行なった場合のみ必要となります。
それ以外の場合は必ず標準設定のままご使用ください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.4「L端子配線」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	L端子配線
OFF（上側）	しない （標準設定）
ON（下側）	す　る

スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定

※ドアロック配線を行なっていない場合も本機能はお使いいただけます。

解 説

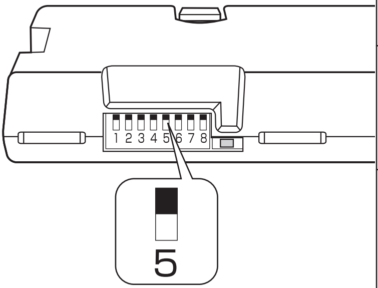
本品は、万一の際に車両が乗り逃げされる事を防ぐため、本品のリモコンでドアをロックしている間には例え純正のキーを使用した場合でもセルモーターが回らないようにすることで、エンジンを掛ける動作を禁止できます。
リモコンでドアをアンロックすると通常のエンジン始動が行なえるようになります。
また、本機能の作動中でも、本品のリモコンからエンジンを掛けることは可能です。
尚、この機能は純正イモビライザー装着車でも同様にお使いいただけます。

⚠注意

- この設定を行なった場合、ドアロック中にリモコンが電池切れになり、リモコンからドアアンロックができない状況ではキーによるエンジン始動ができなくなることをご了承ください。その場合は、リモコンの電池を交換してからドアアンロックの操作をして本機能を解除する必要があります。
- リモコンの電池容量が不足してくると、リモコン操作時にバックライトの明るさが暗くなったり不安定になります。このような状態になったら、早めに電池交換を行なっておいてください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.5「スターターカット」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	スターターカット
OFF（上側）	使用しない（標準設定）
ON（下側）	使用する

強制解除の方法

スターターカット中のリモコン紛失などの場合は、以下の手順で本機能を強制解除してください。
①純正キーを使用して車両ドアを開ける
②メインユニットから車種別専用ハーネスを抜く
③10秒程度待ってから再び車種別専用ハーネスを差し込む

上記作業がご自身で行なえない場合は、スターターカットの設定を行なわないでください。

OP端子出力の設定

※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解 説

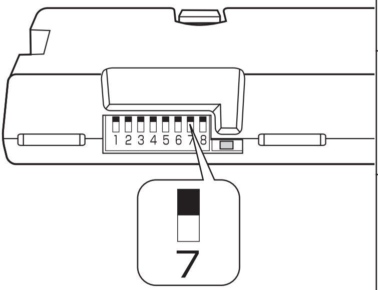
本品に、以下のアダプターを接続する場合は必ず設定を「B」にしてください。

- TE413（イモビ付車対応アダプター2）
- TE417（純正セキュリティ対応アダプター1）
- TE420（キー検出制御アダプター）
- TE422（イモビ付車対応アダプター5）

（2006年8月現在）

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.7「OP端子出力」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	OP端子出力
OFF（上側）	A （標準設定）
ON（下側）	B （・TE413/417/420/422）

グロータイムの設定

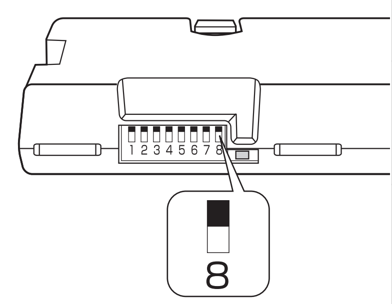
※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
　特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解説

この設定により、アンテナユニットがエンジンスターターの始動信号を受信してから、セルを回すまでの時間を変更することができます。
グロータイムを短く設定すると、リモコン操作からエンジン始動までの時間を短くすることができますが、車両によっては正常なエンジン始動ができなくなります。
（特にディーゼル車の場合は冬期など寒冷時に掛からなくなる恐れがあります。通常は標準設定のままお使いください。）

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.8「グロータイム」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	グロータイム
OFF（上側）	8秒 （標準設定）
ON（下側）	5秒

P/N検出時のST1/ST2切替

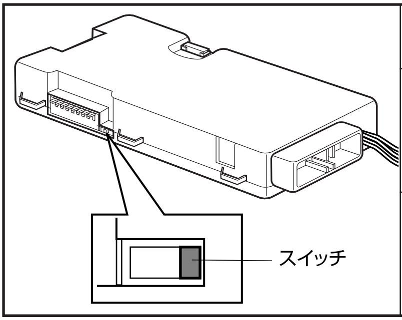
※本体設定がP/N検出モードになっている場合（→P26）のみ設定が可能です。

解 説

この設定は、P/N検出（→P26）を使用する場合、正常なシフトポジション検出ができるように行なうものです。

設定方法

メインユニット設定スイッチの横にあるスライドスイッチを切り替えることで設定が行なえます。
正常にP/N検出が行なえる位置でご使用ください。



スイッチの位置	P/N検出モード
右　側	ST1（標準設定）
左　側	ST2

関連事項

P/N検出・フットブレーキ検出の設定（→P26）
P/N検出データの設定（→P33）

P/N検出データの設定

※本体設定がP/N検出モードになっている場合（→P26）のみ設定が可能です。

解説

以下のような場合には、本手順記載の手順に従ってP/N検出データの設定が必要です。
▼はじめて本品を取付けた時
▼本品を別の車両に付け替えた時（下記 ⚠注意 を参照してください。）

設定方法

※設定は車に乗り込んで行ないます。

⚠注意 本品のP/N検出機能は、バッテリー交換等で本体の電源が断ち切られた場合にもデータを保持します。このためP/N検出データを設定した本体を他の車両に付け替える場合などは、一度メインユニット設定スイッチNo.2を「フットブレーキ検出」に切り替えてP/N検出データを消去した後、再度設定を行なってください。

記号の見方

▬	長い音（ピー）
●	短い音（ピッ）

❶ セレクトレバーを「P」にしてキーを抜く

❷ リモコンでエンジンスタート操作をする

→ エンジンが掛かる場合：P/N設定済みあるいはフット接続済みです。（このままお使いください）

❸ アンテナユニットから「ピー・ピー・ピー・ピー」×2回鳴る
▬ ▬ ▬ ▬ ×2
※他の音が出る場合はP39参照

❹ 20秒以内にキーをON（メーターパネルが点灯する位置）にする

→ （NG）アンテナユニットから「ピ・ピ・ピ・ピー」×2回鳴る
● ● ● ▬ ×2
↓
車種別専用ハーネス品番および車種別専用ハーネス取付状態を確認してください。
※20秒以内にキーをONに出来なかった場合は、もう一度❶から設定を行います。

（OK） ※OK・NG いずれかの音がするまでそのまま待機

❺ アンテナユニットから「ピー」と1回鳴る
▬ ×1

❻ 20秒以内にブレーキを踏みながらセレクトレバーを「R」にする

→ （NG）アンテナユニットから「ピ・ピ・ピ・ピー」×2回鳴る
● ● ● ▬ ×2
↓
P/N検出モードを切り替えて（→P32）再度設定を行ないます。
↓ ※20秒以内にセレクトレバーを「R」に出来なかった場合は、もう一度❶から設定を行います。
P/N検出モードを切り替えても設定できない場合
↓
P/N検出の設定ができない車です。フットブレーキ検出コードの配線を行ない、メインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「フット」（OFF側）に切り替えてください。

（OK） ※OK・NG いずれかの音がするまでそのまま待機

❼ アンテナユニットから「ピー」と1回鳴る
▬ ×1

❽ セレクトレバーを「P」に戻してキーを抜く

設定完了

関連事項

P/N検出・フットブレーキ検出の設定（→P26）
P/N検出時のST1/ST2切替（→P32）

取付け後のメンテナンスなど

この項では、消耗品パーツの交換や故障と思われる際のトラブルシューティングなど、
本品を長くご愛用いただくために必要な情報を解説しています。

ページ

スペアリモコンを使用する（リモコンIDの書込み方法） ………… 36

リモコンの電池交換について ………… 37

エンジンスターター機能が作動しない場合 ………… 38

故障かな?と思ったら ………… 41

リモコンIDの登録・通信周波数切替の方法

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

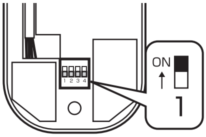
⚠注意 ※本品は、国土交通省エンジンスターターガイドラインに基づき、新しいリモコンのID登録を行なうと、以前記憶していたリモコンでの操作ができなくなります。

解 説

本品は、万一のリモコン紛失の際など別売のスペアリモコンを使用することができます。また、混信・妨害電波などにより通信が安定しない場合には、本項の操作を行なうことで通信周波数チャンネルを任意に切り替えることができるため、本品をより安定した電波環境で使用することができます。

操作方法

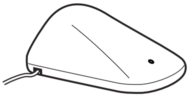
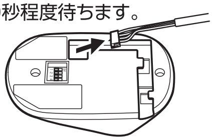
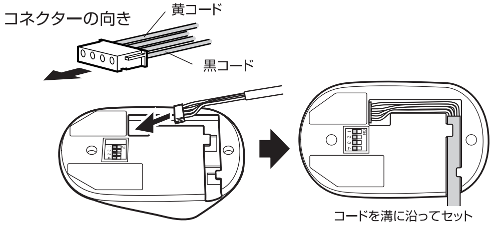
※エンジンが停止した状態で操作してください。
※この操作は5分以内に完了するようにしてください。



アンテナユニット裏面

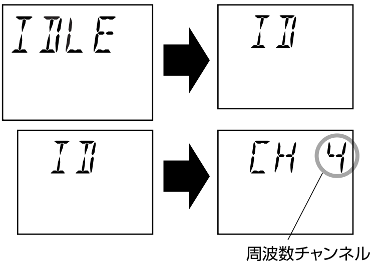
1. アンテナユニット裏の設定スイッチNo.1「ID書込」をONにします。
（アンテナユニットのLEDが点灯します。）

アンテナユニットのLEDが「点灯」状態にならない場合は、「ID書込」をOFFに戻してから以下の操作を行なってください。
アンテナユニットのコネクターをメインユニットから一旦抜き、10秒程度持ってから再び差込んだ後、「ID書込」をONにしてください。

> メインユニットからアンテナユニットのコネクターを抜くことが困難な場合は、以下の要領でアンテナユニット裏のコネクターを抜き差ししてください。
>
> ① ダッシュボードからアンテナユニットを外します。
>
> 
>
> ② 裏面のコネクターを外し10秒程度待ちます。
>
> 
>
> ③ 再びコネクターを差し、アンテナユニットを元の位置に戻します。
> *コネクターは奥まで確実に差込んでください。差込む際は、ショートを避けるため金属（ドライバー等）は使用しないでください。
>
> 
>

2. ボタンを3秒以上押し続けます。

3. リモコンに IDLE の表示が行なわれたら、STOPボタンを1回押してID登録モード ID に切り替えます。
※STOPボタンを押し過ぎた時は、STARTボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。



4. ボタンを押すと本体との通信を行ない、現在の通信周波数チャンネル（1～6）が表示されますので、STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、希望する周波数に合わせ ボタンを押します。
参考 通常は周波数を変更する必要はありません。

5. 本体のID書込インジケータが一旦消灯し再び点灯します。
6. アンテナユニット裏の設定スイッチNo.1「ID書込」をOFFにします。

リモコンの電池交換について

解説

本品の電池寿命（CR2025×2ヶ）は、常温時において1日10回の使用で約1年間です。
電池が消耗すると、送信距離が短くなったり、操作ができなくなることが考えられますので、定期的な電池の交換をおすすめします。また、出荷時にあらかじめリモコンに入っている電池はモニター用につき、通常より電池寿命が短くなる場合があります。
※本品に使用する電池（CR2025×2ヶ）は、ほとんどの電器店、コンビニエンスストア等でもお買い求め頂けます。

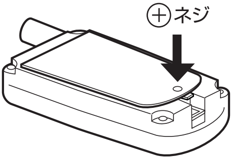
⚠注意 電池交換の際は、2ヶの電池を共に新しい電池と交換してください。
古い電池と新しい電池を混ぜて使用すると液漏れ等の原因になりますので絶対に行なわないでください。

参考 リモコンの電池容量が不足してくると、リモコン操作時にバックライトの明るさが暗くなったり不安定になります。このような状態になったら、あらかじめ早めに電池交換を行なっておいてください。

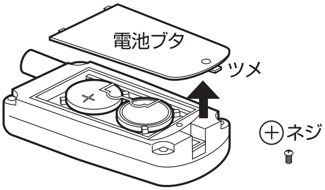
電池の交換方法

※交換時は非常に小さいネジを外します。万一落とした場合に紛失しないよう、できるだけ室内での作業をおすすめします。

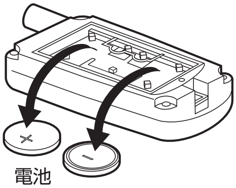
❶ 精密ドライバーを使用し、リモコン裏面の電池ブタ部分にある ⊕ ネジを外します（ネジの紛失に注意）。



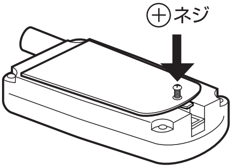
❷ 電池ブタを上に持ち上げて外します。
※電池ブタを外す際はドライバーの先端などでツメを持ち上げてください。



❸ ⊕ ⊖ の方向に注意して電池を交換します。



❹ 電池ブタを戻し、❶ で外したネジで止めます。



使い終わった電池は

使い終わった電池は、各自治体が定める方法で処理してください。

エンジンスターター機能が作動しない場合

必ず下記の手順に従って確認作業を行なってください。

手順❶ リモコン電池の状態を確認する （→P37）

・リモコンの電池は正しく入っていますか?
・リモコンの電池が消耗していませんか?

手順❷ 取付車種および取付ハーネス品番などを確認する

・取付車種が本品の取付不可車種になっていませんか?（店頭の車種別ハーネス適合表等で確認してください。）
・ハーネスの品番は合っていますか?（店頭の車種別ハーネス適合表等で確認してください。）
・車種別専用ハーネスのアースコード（黒）の接続は正常ですか?ゆるみ等はありませんか?

手順❸ キーでエンジンがかかるかどうか確認する

（※）あらかじめP17の「ドアをアンロックする」を参照の上、スターターカット機能をOFFにしてください。
スターターカット機能（→P29）がONになっているとキーでのエンジン始動は行なえません。

キーでもエンジンがかからない場合

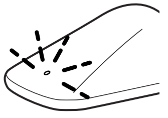
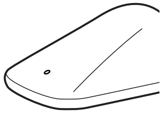
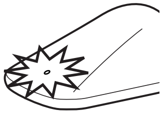
・車種別専用ハーネス及び、イモビ付車対応アダプターが正しく接続されているかどうか確認してください。

キーならばエンジンがかかる場合

・純正イモビライザー装着車の場合は、イモビ付車対応アダプターの配線・ループアンテナの取り付け位置・ケース内のキーの固定位置などを調整してください。
・メインユニットのヒューズが切れていないかどうか確認してください。
・メインユニットの設定スイッチNo.3「ホンダABS」の設定を確認してください。

手順❹ 通常待機時の防犯LEDの発光状態を確認する

アンテナユニットにある防犯LEDの発光状態を確認します。
確認の際、直射日光の当たる場所など明るいところでは防犯LEDの発光状態が目視しにくいことがあります。そのような場合はアンテナユニットの周囲を手で覆うなど、防犯LEDの点灯状態が見やすいようにして確認してください。

	LEDの状態	原因・対処方法
	ゆっくり点滅を繰り返している場合	通常の受信待機中です。 手順❺に進んでください
	ランプが消えたままになっている	エンジンキーがONの位置になっている場合は、エンジンキーを抜いてください。キーが抜いてあるにもかかわらず、アンテナユニットのLEDが点滅しない場合、本品のアースコードの接続場所が適切でない可能性がありますので、アースコードの接続場所を変更してください。また、アンテナユニットのコネクターがメインユニットに正しく接続されているか確認してください。
	ずっと点灯し続ける	ID書き込みモードになっています。 アンテナユニット裏の設定スイッチNo.1がONになっている場合はOFFに切り替えてください。

エンジンスターター機能が作動しない場合

手順 ⑤ リモコンでエンジンスタートの操作を行い、リモコンの液晶ディスプレイおよびアンテナユニットのLEDの状態を確認する

本品にはエンジンの始動ができない原因を自己診断して、リモコンの液晶ディスプレイにエラーNo.を表示し、さらにアンテナユニットのLEDおよびブザー音によって知らせる機能があります。

操作方法

リモコンのSTARTボタンを押し、エンジンスタートの操作をしてください。（→P14）

その時リモコンの液晶ディスプレイに表示される内容とアンテナユニットの防犯LEDおよびブザーの状態を確認してください。

エラー表示一覧表

● ＝短いブザー音およびＬＥＤの点灯　　━ ＝長いブザー音およびＬＥＤの点灯

リモコンの表示	ブザー音およびLEDの状態	原因・対処方法
Err01	●●●━　●●●━	**◎P/N検出エラー 1** シフトポジションが「P」または「N」以外の位置になっている可能性があります。エンジンを掛けることができる位置にシフトポジションを切替えてください。 シフトポジションが「P」または「N」の位置であるにも関わらずこのエラーが出る場合は、メインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）をOFFにし、5秒程度待ってから再びONに切り替え、P33を参考の上、再びP/N検出データの設定を行なってください。
Err02	●●━●　●●━●	**◎フットブレーキ検出エラー** フットブレーキ検出コード（車種別専用ハーネスの細い紫コード）の配線が誤っている可能性があります。 フットブレーキ検出を使用せずにP/N検出を使用する場合は、必ずメインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「P/N」（ON側）に切り替えてください。
Err03	●●━━　●●━━	**◎サイドブレーキ検出エラー** サイドブレーキ検出を使用しない場合は、メインユニットの設定スイッチNo.1（サイドブレーキ検出キャンセル）が「キャンセルする」（ON側）になっているかどうか確認してください。 サイドブレーキ検出を使用する場合は、サイドブレーキ検出コード（車種別専用ハーネス付属の細い橙コード）の配線が誤っている可能性があります。サイドブレーキ検出コードの配線を確認してください。
Err04	●━●●　●━●●	**◎L端子エラー** L端子の配線が誤っている可能性があります。 配線を確認してください。（下記参考参照）

P40へつづく ↓

参考 L端子コードとは、エンジンルーム内のオルタネータから出ているコードのうち、① バッテリーへ行く太いコード以外で、② イグニッションON時は約+2V以下の電圧で、③ エンジン始動後+12Vが出るコードです。

エンジンスターター機能が作動しない場合

リモコンの表示	ブザー音およびLEDの状態	原因・対処方法
Err05		**◎バッテリー容量エラー** 車両バッテリーの電圧が低く、セルモーターを回せません。車両のバッテリーを充電してください。 （バッテリー上がりを未然に防ぐための機能です）
Err06		**◎始動判断エラー1（始動判断できない）** **セルは回るが、エンジンがスタートしない場合** セルモーターの作動時間が短いことが考えられます。P22を参照の上、セル回転時間を長めに切り替えてください。 また、イモビ付車対応アダプターを使用している場合は、アダプターが正常に取り付けられているか確認してください。 **エンジン始動後すぐに止まってしまう場合** 車両特性によりエンジンの始動判断が行なえません。始動判断が正常に行われない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子コード（茶色の細い線）を接続した上で、L端子配線の設定（→P28）を行なってください。（下記参考参照）
Err07	――――	**◎イグニッションエラー** 車両のイグニッションがキーによってONになっています。イグニッションキーを抜いてください。
Err08		**◎スリープモード** 14日以上エンジンをスタートさせていない場合は、スリープモードに入るためエンジンスタートができません。 キーで一度エンジンを掛けてスリープモードを解除してください。
Err 15		**◎P/N検出エラー 2** P/N検出が設定されていません。 P33を参照の上、P/N検出の設定を行なってください。P/N検出が正常に行なえない車両の場合は、メインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「フット」（OFF側）に切り替えて、フットブレーキコード（車種別専用ハーネスの細い紫コード）を配線してください。（→別紙取付マニュアル参照）
Err90	――――	**◎送信エラー** リモコンから電波を送信できませんでした。くわしくはP15下に記載されている 参考 を参照してください。改善しない場合はP36をご覧になり、周波数変更をお試しください。
Err99	――――	**◎通信エラー** リモコンとアンテナユニット間の通信が成立しませんでした。 くわしくは、P15下に記載されている 参考 を参照してください。
――	エンジンが始動しないのに点灯したままの状態が続く場合	**◎始動判断エラー2（誤った始動判断を行なう）** 車両特性により、誤った始動判断を行なっています。メインユニットの設定スイッチNo.3（ホンダABS）の設定を確認してください。それでも始動判断が正常に行なわれない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子コード（茶色の細い線）を接続した上で、L端子配線の設定（→P28）を行なってください。 （下記参考参照）

参考 L端子コードとは、エンジンルーム内のオルタネータから出ているコードのうち、①バッテリーへ行く太いコード以外で、②イグニッションON時は約+2V以下の電圧で、③エンジン始動後+12Vが出るコードです。

故障かな? と思ったら

	症　状	解　説	参照ページ
リモコンについて	リモコンが操作できない	リモコンの電池が消耗していませんか? 新しい電池に交換してから操作してください。	P37
		リモコン裏面の絶縁シートが付いたままの場合、外してからご使用ください。	–
	通信完了まで時間がかかる	本品は、リモコン操作（電波送信）を行なった後に車両側アンテナユニットからのアンサーバック信号が受信できなかった場合、自動的に再送信を試みます。この場合、通信完了までの時間が通常より長く掛かりますが異常ではありません。	–
	リモコンでエンジンを止めることができない	キーでエンジンを掛けている時は、リモコンでのエンジン停止は行なえません。	P15
	エンジンスターターの操作時、車両側はエンジンが掛かるにも関わらず、リモコンへのアンサーバックが行なわれない。	本品のリモコンは、エンジンスターターの操作から約30秒間のみ車両からのアンサーバック信号を待ち受けています。この間に何らかの原因によりアンサーバック信号を受信できなかった場合は、そのまま液晶表示を終了します。	P14
	車両側は正常に動作しているにも関わらずリモコンに Err-99 と表示される。	リモコンから車両側への通信は正常に行なわれたが、車両側からリモコンへのアンサーバック信号が何らかの原因により受信できなかった事が考えられます。	P15頁下の 参考
	リモコン操作時、液晶ディスプレイが表示されるまでに時間がかかる。	液晶の特性上、低温時の表示には多少時間がかかる場合があります。リモコン内部の温度が上昇すれば表示は元に戻ります。	–
	バックライトや液晶表示が暗くなったり不安定な状態になる。	リモコンの電池が消耗していると思われます。 新しい電池に交換してください。 また、低温になる場所にリモコンを置いておくと、一時的に電池電圧が低下してリモコンの表示が薄くなる場合がありますが、常温になれば元に戻ります。	P37

	症　状	解　説	参照ページ
エンジンスターター・ターボタイマー機能について	エンジンスターターが作動しない	メインユニットのヒューズが切れていませんか? 配線を再確認してから新しいヒューズ（別売）に交換してください。	–
		ID登録が正しく行なわれていない可能性があります。 再度リモコンIDの登録を行なってください。	P36
		P/N検出データが消失していませんか? 再度データを書き込んでください。	P33
		その他の原因の場合は「エンジンスターター機能が作動しない場合」を参照の上、確認作業を行なってください。	P38～P40
	ターボタイマーが作動しない	ターボタイマー機能の設定が正しく行なわれていますか?	P24
	エンジンスターター・ターボタイマーのアイドリング中、純正キーレスエントリーが作動しない	ほとんどの純正キーレスエントリー装着車は、車両の仕様上エンジン始動中に純正キーレスエントリーが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能およびターボタイマー機能によるアイドリング中は、本品のドアアンロック機能を使用するか、キーを使用してドアを開ける必要があります。	–

	症　状	解　説	参照ページ
その他の症状	通信距離が短い	リモコンの電池が消耗していませんか？ 新しい電池に交換してください。	P37
		リモコンと車の間に電波を遮断する障害物が多いことが考えられます。特に金属物質は電波を通しにくく、通信距離を著しく縮めますので使用の際はご注意ください。	－
		アンテナユニットをダッシュボード以外の場所（特にインダッシュ等）に取付けている場合は通信距離は短くなります。	－
		アンテナユニットの近くに金属があると通信距離が短くなる場合があります。ピラー等の金属部から5cm以上離して取付けてください。	－
	ドアロック機能が使用できない	ドアロック機能はドアロック適合車種のみ使用可能です。また、ドアロック機能を使用するには別途ドアロック配線が必要となりますのでご注意ください。	－
		ドアが開いているとドアロックモーターが作動しない車種がありますので、必ず全てのドアを閉めてからドアロックの操作を行なってください。	P16
	キーによるエンジン始動ができない	本品の「スターターカット機能」が働いていませんか？ ドアのアンロック操作を行なってスターターカット機能をOFFにしてから再度始動を試みてください。	P17･29
		車種別専用ハーネスが緩んでいたり、本品のメインユニットが接続されていない場合、キーによるエンジン始動ができなくなります。 接続が確実に行なわれているかどうか確認してください。	－
	ドアをアンロックすると車両の 純正ホーンが鳴る	純正のセキュリティアラームなどが装備されている車両の場合、純正リモコンドアロックでドアをロックした後、本品でドアアンロックを行なうと、純正セキュリティアラームが鳴る場合がありますが故障ではありません。 このような車両の場合、ロック操作とアンロック操作を同一のリモコンで行なう必要があります。	－
	その他、動作が不安定な場合	車種別専用ハーネスのゆるみがないか、また、アースコードが確実なアースポイントに接続されているか確認してください。	－

保　証　書

保証規定

1.保証期間内（お買上げ日より3年間※リモコンは1年間）に、正常なご使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします。
2.次のような場合には、保証期間内でも有料修理になります。
（イ）本保証書のご提示がない場合
（ロ）使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷
（ハ）お買上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
（ニ）火災、地震、水害、異常電圧、公害、指定外の使用電源（電圧・周波数）及びその他天災、地変などによる故障及び損傷
（ホ）本保証書の所定事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。但し、お買上げ日、販売店名はレシートで可
（ヘ）外観部分の損傷
（ト）電池寿命
3.不正改造車に取付けされた場合は保証対象外です。
4.製品・部品・付属品を紛失された場合は保証対象外です。
5.修理は、お買上げの販売店に必ず本保証書をご提示の上、ご依頼ください。
6.本保証書は、再発行いたしませんので、大切に保管してください。
7.本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only for service in Japan.

CARMATE 株式会社カーメイト
本社／〒171-0051 東京都豊島区長崎5-33-11　TEL.03-5926-1216（代表）

■仕　様

技術基準	特定小電力無線局テレコントロール用無線設備
使用周波数	429MHz帯（6チャンネル任意切替式）
通信方式	単信方式
送信出力	10mW
送信時間	40秒以内
送信休止時間	2秒以上

■リモコン

外形寸法	61.3x32.4x17.4(mm)※アンテナ部含まず
重量	約28g
使用電池	CR2025×2ヶ
電池寿命（常温時）	約1年（1日10回の送信を行なった場合）
作動温度範囲	0℃ ～ +60℃

■アンテナユニット

外形寸法	69.5x42.5x30.0(mm)
重量	約50g
コード長	約1.5m
作動温度範囲	−20℃ ～ +70℃

■メインユニット

外形寸法	66x139x27(mm)（突起部除く）
重量	約160g
電源電圧	DC12V
消費電流	約10mA（待機時）（スリープモード付）
作動温度範囲	−20℃ ～ +70℃